



- ・大聖堂での調査後、次の調査先であるランス市役所へ向かった。

2 (3) ランス市役所【ランス市表敬訪問】

◆調査日：令和6年7月15日(月)

◆対応者：Arnaud ROBINET氏(ランス市長)

Dimitri OUDIN氏(ランス副市長(国際化担当))ほか



《調査目的・概要》

名古屋市とランス市は、2013年に両市の美術館同士の友好提携に関する覚書を締結して以来、様々な交流を続ける中で非常に友好的な関係を構築してきた。2017年10月20日には姉妹都市提携を、2018年11月9日には名古屋市立大学とランス・シャンパーニュ・アルデンヌ大学が大学間交流協定を締結するなど、年々ランス市との関係は親密なものとなっている。

この度、名古屋市会欧州視察団で改めてランス市役所を訪問し、ランス市長、ランス副市長へ今までのご協力について感謝申し上げるとともに、面談を通じてさらなる両市の発展に向けた協議を行うこととする。また、官民による相互交流の絆を更に強化することを目的に、これまで交流を行ってきた関係団体の声を親書としてお届けした。

【参考】ランス市との姉妹都市交流の概要について

(1) 姉妹都市提携の主な経緯

時期	事項
平成 25 年 6 月	ランス市から画家藤田嗣治氏をきっかけとした姉妹都市提携の申し入れ
平成 25 年 10 月	「名古屋市美術館とランス美術館の友好提携に関する覚書」の締結
平成 25 年～ 平成 29 年	・相互往来による姉妹都市提携に向けた協議 ・市美術館で「藤田嗣治展」開催
平成 29 年 10 月	名古屋市にて姉妹都市提携調印式開催
平成 30 年 5 月	ランス市にて姉妹都市提携記念式典開催

(2) 両市間の主な交流等

文化	・名古屋市美術館：友好提携覚書締結(平成 25 年) ・テレビ塔にて食文化紹介イベントを開催(平成 30 年)
観光	・栄クリスタル広場でクリスマス紹介動画を放映(令和 2～4 年) ・ランスのクリスマスマーケットに出展(令和 4 年)
教育	・名古屋商科大学：協定締結(平成 21 年)(ネオマビジネススクール) ・名古屋市立高校：高校生派遣開始(平成 30 年) ・名古屋国際高校：姉妹校提携締結(平成 30 年)(クレモンソー高校) ・名古屋市立大学：大学間交流協定締結(平成 30 年)(ランス大学) ・名古屋大学：全学学術交流協定締結(平成 31 年)(ランス大学)
スポーツ	・名古屋グランパスとスタッドランスのユニフォーム交換(平成 29 年) ・ランスのベースボールクラブを視察(令和 4 年)

名古屋市会欧州視察団にてランス市役所を訪問し、まず、Dimitri OUDIN 副市長からランス市議会の議場において歓迎を受けた。

Dimitri OUDIN 副市長からは冒頭、ランス市議会議場、「サル (salle)」をご紹介頂き、ランス市と名古屋市の議会の違いや市の再建にまつわる歴史、そしてランス市の議会運営の詳細を知る事ができた。



まず議会の運営と会議の頻度について、ランス市では1か月半に1回、市議会が夜に開催され、議論や決定が行われる。フランスでは市議会の会議が公開されており、市民も参加することができるが、発言は制限されているとのことであった。

また、議場と建物の歴史について、視察団が見学をさせていただいた会議が行われる議場は、17世紀に建設されたものの、第一次世界大戦で被害を受け、その後1928年に再建されるという歴史的な背景があり、建物の装飾やフレスコ画には、ランス市の再建と平和への願いが込められているとのことであった。

議員の性別割合と選出方法についても大変興味深く、フランスでは、議員の性別割合が法律で規定されており、リスト形式で選挙が行われる。市長のリストには多様な背景や職業の人々が含まれており、幅広い市民層を代表するように構成されているとのことであった。

議会での投票と決定プロセスにおいても、投票は手を挙げる形式で行われることが多いが、大規模な会議ではボックスを使った投票も行われる。市長や副市長が提案する予算などが議会で審議され、反対された場合は再提案が行われる。

女性議員と子育てについても視察団から質問があり、フランスでは、学校の授業や給食制度により、女性が働きやすい環境が整っており、議員としての活動も支援されているとのことであった。



なお、ランス市役所における質疑応答の概要については、以下のとおりである。

<議員>

壁の肖像画はどなたですか。

<Dimitri OUDIN 氏>

19世紀の終わりの市長です。これは伝統なんです、今の市長さん以外、全員の絵画があります。つまり任期が終わって絵をかけることになるのです。

<議員>

議場の資料はペーパーレスですか。それとも紙で配りますか。あとインターネットは使えますか。

<Dimitri OUDIN 氏>

紙がほしい人は紙でもらえます。

また、上を見ていただくとスクリーンがありますよね。上のところから映像が、市民が見えるように、オンラインで集まるときに映像を見ることができます。私たち議員が集まるときというのは一



般公開されています。誰でも見られるようになっているんです。なので、市民がここに来たいときはその後ろの席に座ります。ですから、誰でもここに入って見ることはできますが、実際何かを話すことは禁止です。助言は一切禁止。

また、インターネットでオンラインで見することもできます。タブレットもあります。投票するときは、私たちは人数が少ないので手を挙げて。あとはいろんなコミューン、街ってことですね、コミューン間の会議もあるわけです。そうすると140人の、大きな街の市長だったり副市長、140人のコミューンの集まりもあるわけです。そういうときにはボックスがあって投票します。手を挙げるには複雑すぎるので。



<議員>

女性議員というのは、どれぐらいの割合でいるんですか。

<Dimitri OUDIN 氏>

ほぼ50%です。フランスの仕組みでは、リストで投票します。そのリストの大体トップが市長、その後に名前が載ります。市民が投票するのはリスト。そのリストは、半分男性、半分女性というように法律で義務づけられています。それをパリテといいます。

ただ、副市長を選ぶときは別に男女半々という義務はないけれど、今の市長さんはそういう方針です。1番の副市長が女性です。私の場合は7番目、女性、男性、女性、男性、女性、男性。

1998年に法律として、候補者を出すときに必ず男性、女性ですね。それを守らなければ政治派閥が罰金を払います。



<議員>

そのリストに名前が載るためには、市長さんとい関係だったりとかいろいろあると思うんですけど、何か資格みたいなものはいるんですか。

<Dimitri OUDIN 氏>

資格というよりも、市長が自分のリストの構成を自由に選びます。市長が自分のリストの一番トップに載ります。選び方として、まずは街の全体のところを表さないといけないリストなので、場合によっては、人によって政治家であったり、あるいは街のどこかのアソシエーション、協会に入っている。

例えば私の場合、ランスと名古屋の姉妹都市アソシエーションの一番最初の会長でした。ということで、私に声がかかったわけです。

あとは同じような職業であってはいけません。いろいろな違う職業の方々がいます。あとは男女、50%や政治派閥。ですから、今の市長さんのリストの中には左翼の人もいれば、右翼の人もいれば、中間の人もいれば、そういう幅広く、





全部市民を表すような感じにしないといけない。そういうふうにはリストを構成していきません。

<議員>

女性が議員として活動していく中で、子育てをしている女性もいれば、出産をする女性もいるし、そういうところはどうなっているのですか。

<Dimitri OUDIN 氏>

フランスは中学校入学までは4時半、中学校は5時。高校は6時まで学校があります。朝8時から6時まで。そして学校の行事は、

ほぼありません。

もう1つ、給食についても、フランスはどこでも食堂があります。ですからもしお金があまりなければ市が負担するとか、収入に応じて払うというのが1つベースになります。というように、女性がまず働ける環境にあるということがあります。

子育てについて、女性は確かに難しいと思いますが、男性もそうです。ですから、やっぱり子育ては2人で考えていかないといけないということなんですね。考えて助け合っていないといけない。週末も来るわけですし、夜遅くまで仕事もあるわけですし。

でも女性はちゃんと出席するし、夜遅くも週末も来るし、例えば私の同僚、女性なんですけど、子どもが4歳、時々面倒見てくれる人が見つからない、そういう時は連れてきます。おとなしいので。



<議員>

この会議室は何という名前ですか。

<Dimitri OUDIN 氏>

フランス語で、サル(salle)。ですから市議会、本会議場、一番メインの市長、

副市長、議員が集まる場所。

ほかにも使うことがありますけれど、メインはそれです。やはり1か月半に1回、そういうふうに市議会が集まる場所として使われています。

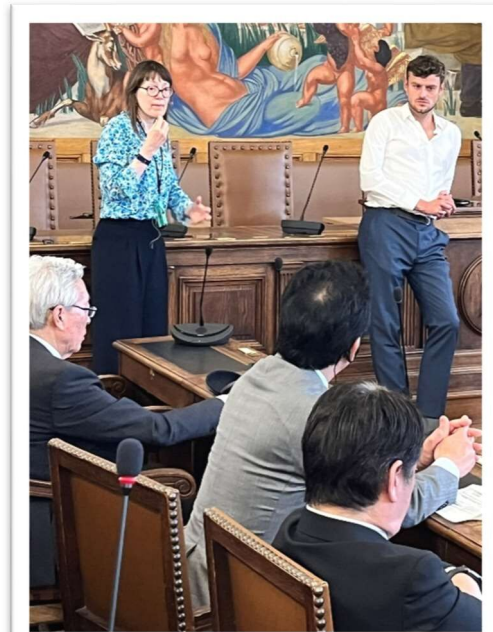
<議員>

1か月半に1回、何日間ぐらい議会が開かれるのですか。

<Dimitri OUDIN 氏>

一晩。1か月半に一晩集まります。本当は1か月に1回ですが、夏休みなどを入れていくと1か月半に1回となるわけです。

それで、夜だけ、18時半から22時に行われます。けれども、その前に、それぞれの局がもっているテーマごとに集まって議論したりと事前準備があります。例えばスポーツ局だったり文化局だったり。それぞれの局で集まって事前準備をしてくると。



<議員>

我々でいう議員が市長をやり、副市長をおやりになるじゃないですか。そうすると例えばスポーツ局のスタッフというのは、副市長さんがトップで、ほかの議員もスポーツ局の中のミーティングメンバーに入るのですか。

<Dimitri OUDIN 氏>

スポーツ局の担当の副市長、その下にスタッフが60人、それぞれの局を全部合わせていくと、スタッフとして3,000人働いている。

<議員>

その60人は市の職員ですか。



<Dimitri OUDIN 氏>

市の職員です。ただ、議員だけはそうじゃない。

<議員>

副市長は政治家ですよ。例えばそれ以外の議員がスタッフの中に入っているとか。

<Dimitri OUDIN 氏>

副市長だけが、局を担当している。ほかの59人のうち、40人は何も担当していない。それが多分日本との違いだと思います。



<議員>

予算とかを提案するのは市長とか副市長で、そちらの assembly、council のメンバーが、それを議決するのですか。

<Dimitri OUDIN 氏>

市長がそれを提案するんですが、財政副市長がそれを全部つくって、その後に皆さんに紹介する。市長と同じ政治派閥であれば大体 OK していく。反対派の方は投票しないか反対するか、というのが一般的です。

<議員>

反対多数で否決されたときはどうなるのですか。再提案するのですか。

<Dimitri OUDIN 氏>

そうです。ただ、あり得るのが、例えば自分と同じ政治派閥に問題があって4、5人、予算に投票しない、あるいは反対する、そうすると市長と反対派閥と同じような数になってくる場合があるわけです。

そうすると、もう市長が辞めることになります。それで、もう一回選挙。ランスでは1回もない、ほぼない話ですが。けれども、もう少し小さい街では起こった話です。10年前の、私の知り合いの話ですが、自分たちの政治派閥のリストのうち、やめた人が次々と出てきました。それで、反対側の政治派閥の方が多くなりました。それで、もう一回選挙を行い、負けました。



Dimitri OUDIN 副市長から説明を聴取した後、Arnaud ROBINET 市長を表敬訪問した。

表敬訪問では、今回の訪問に対しての歓迎の意を表されるとともに2013年から始まった名古屋市との交流の中で、姉妹都市提携が結ばれたことに対する御礼の言葉をいただいた。

その後、ふじた団長から歓迎に対する返礼のあいさつを行った後、名古屋市、名古屋国際中学校・高等学校、名古屋フランス料理研究会、姉妹都市交流に理解をいただいている市民の方、名古屋市立大学から承った親書をお渡しした。

Arnaud ROBINET 市長の歓迎のあいさつの概要等は、以下のとおりである。

<Arnaud ROBINET 氏>

ランス市と名古屋市の間で友好関係が築かれた後、7年にわたる協力を通じて、両市は戦略的なパートナーシップを構築し、多岐にわたる交流を深めてきました。文化、教育、経済、観光、スポーツといった分野での協力が進展しており、その結果、両市の関係はま



▲Arnaud ROBINET 氏

すます強固なものとなっています。これからも、国際的に知られるように支援していきましょう。

日本文化が好きだった、ジャック・シラク大統領が1997年に話された言葉です。「日本とフランスは、両国とも古い国であり、古い文化もあり、歴史もあり、そして伝統を守り、自分たちのアイデンティティを強く持つ。その一方で、新しいアイディアも多い。そして私たちは古い国でありながらも将来を向いて進んでいく。いろんなことがあって、ともに助け合って前に進んでいく。」

これが本当にランス市と名古屋市に当てはまります。お互いに歴史があり、アートがあり、伝統を守りながら将来に向かって進んでいく2つの街。ノートルダム大聖堂と名古屋城、ともに両方の街を代表している重要な建物です。20世紀の非常に才能にあふれた画家、レオナール・フジタ。彼が伝統から考え、フランスに惹かれて、フランスにきたことは最初から決められていたことのような気がします。そして皆さんが今朝見られたフジタチャペル。藤田氏の手で描かれたフレスコでおおわれています。

藤田氏はこう話していました。「私はアーティストとして、自分の作品が世の中に残るようにしたい。」ランス市はフジタチャペルの保存をし、いろんな作品を持っているので、藤田嗣治氏が話した言葉どおりのことを行おうとしています。

今、修復工事で美術館が閉館していますが、将来、開館した時には、一部屋全部藤田氏の絵にしたいと考えています。ゴディノ広場では、夏だけの期間、日本庭園を見ていただけるようにしました。お互いの街の友好関係を考えてつくったのです。

皆さん、本当にランス市によろこそいらっしゃいました。皆さんの街でもあります。ランス市の滞在を楽しんでください。



<ふじた団長>

今日は ROBINET 市長さん、大変お忙しい中、私どもをお迎えいただきまして大変ありがとうございました。

少しだけ個人的な話をさせていただきます。7年ぶりにランスに来ることができました。この数年間はコロナ禍でしたから、お互いのお付き合いが叶いませんでした。議会代表では一昨年、金庭宜雄、当時の副議長がお邪魔しています。今日は成田、当時の名古屋市会議長も一緒にさせていただきます。

7年ぶりと申し上げたのは、私が最初にランスに来たのは2013年。ちょうど今話にあった、藤田嗣治さんの展示を名古屋でさせていただきたいという、当時の名古屋の美術館長と一緒に邪魔しました。その中継ぎをさせていただいたのは、おくむら文洋先生でした。その覚書がスタートして2014年、名古屋市長がこちらのランスにお邪魔させていただきました。その後、名古屋でランス展が実現して、そして2017年、名古屋市とランス市の姉妹提携が行われました。そしてランス市と姉妹提携が結ばれたことを記念して、議会もその当時訪問団を編成してお邪魔をしたのが2017年です。その時も訪問団長をさせていただきました。

そしてコロナを経て先ほどお話をした7年ぶりに、改めて議会の訪問団として邪魔しました。今日は名古屋の市民の皆さんのランス市へのお手紙、メッセージを預かってきておりますので、名古屋市を代表して ROBINET 市長さんにお渡ししたいと思います。

まず名古屋市、名古屋国際中学校・高等学校、それから名古屋フランス料理研究会、姉妹都市交流に理解をいただいている名古屋市にお住まいの方、そして名古屋市立大学の郡理事長から。これは郡理事長から名古屋市立大学のパンフレットを、ぜひ市長さんにお渡しくださいとのことです。

今日1日の滞在ですけど、十分に皆でランスを楽しみたいと思います。この後の日本庭園も大変楽しみにしています。副市長さんには大変暑い中ご同行いただきました。皆さんには心から感謝しています。





- ・ランス市役所での調査後、次の調査先である臨時日本庭園「ランスから名古屋へ」へ向かった。

2 (4) 臨時日本庭園「ランスから名古屋へ」視察

- ◆調査日：令和6年7月15日(月)
- ◆対応者：Catherine CHOPART氏(ランス副市長(緑地担当))
Cécile POCHET氏(ランス市緑地・庭園担当局長)
Dimitri OUDIN氏(ランス副市長(国際化担当))ほか



《調査目的・概要》

ランス市では、毎年7月から8月にかけて、市内のゴディノ広場において、特定のテーマを設定し、庭園を造ってイベントを行っている。

今年は「ランスから名古屋へ」をテーマに、臨時日本庭園を造り、イベントを開催しているとのことであったため、視察団として現地調査を行い、担当者から説明を聴取した。

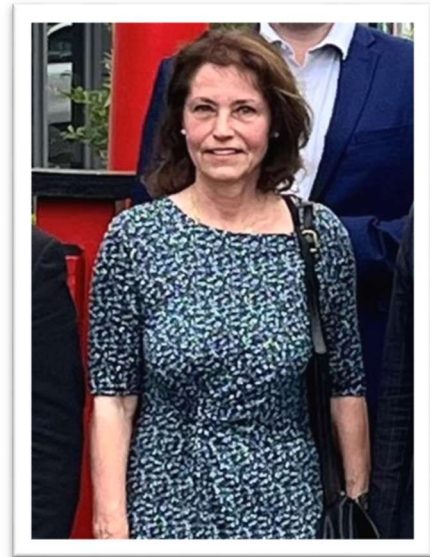
臨時日本庭園「ランスから名古屋へ」では、ランス副市長(緑地担当)である Catherine CHOPART 氏より説明を聴取しつつ、現地調査を行った。その概要は、以下のとおりである。

<Catherine CHOPART 氏>

私は Catherine CHOPART です。5 番目の副市長で緑地、植物を担当しています。

ランス市では、毎年7月1日から8月31日まで、このゴディノ広場の空間に何かテーマを設定して庭園を造っています。

私は日本が好きで、ちょうど今、日本語を勉強しています。名古屋市とランス市は姉妹都市でもあるということで、今年は「ランスから名古屋へ」をテーマに、臨時日本庭園を造りました。



▲Catherine CHOPART 氏

このゴディノ広場でいろいろなテーマで庭園を造り始めたのが4年前となります。今年は4年目。

去年は、街にどんどん植物が増えてジャングルになるということをイメージして庭園を造りました。今年は、日本庭園です。庭師の方々と一緒に、自分たちで日本庭園とは何なのかといったことを考えて造りました。



なお、反対側に見える彫刻みたいなものは、ゴディノ噴水です。フランス庭園には必ず噴水があります。フランス庭園の特徴は、フラット、真っ直ぐ、幾何学的な形にしていける。そして噴水がある。自然を支配するのがフランス庭園です。



まるで、今回の視察団の来訪にあわせて造っていただいたかのように思える日本庭園であった。とても感動的であり、毎年すてきな庭園を造っていただくことを希望したい。





- ・臨時日本庭園「ランスから名古屋へ」での調査後、次の調査先であるランス美術館保存センターへ向かった。

2 (5) ランス美術館保存センター【美術館施策調査】

- ◆調査日：令和6年7月15日(月)
- ◆対応者：Georges MAGNIER 氏(ランス美術館長(le musée des Beaux-Art))
Marie-Hélène Montout-Richard 氏(ランス美術館長)
Dimitri OUDIN 氏(ランス副市長(国際化担当))ほか



《調査目的・概要》

ランス美術館は、ランス市中心にあるサン=ドニ修道院だった建物を改築し、1913年に開館した美術館である。2019年より休館し、大規模な改修工事を行っており、2026年に再開予定となっている。改修後には、藤田嗣治氏のための展示室が新設される予定である。現在、収蔵作品については、美術館改修工事のために建設したランス美術館保存センターに移動し、管理保管を行っている。

ランス美術館と名古屋市美術館は2013年に両館の発展のために「友好提携に関する覚書」を締結し、2017年には名古屋市において「ランス美術館展」を開催するなど、様々な交流を重ねてきている。

そのような中、ランス美術館保存センターの関係者との意見交換と現地の調査を実施し、今後の美術館施策の参考とするとともに、今後も交流を希望する名古屋市美術館の声を親書としてお届けした。

【参考】名古屋市美術館とランス美術館との交流について

(1) 名古屋市美術館について

- ・昭和63年開館。昨年度(令和5年)に開館35周年を迎えた。
- ・令和5年度の入館者数は、415,654人
- ・「エコール・ド・パリ」「メキシコ・ルネサンス」「郷土の美術」「現代の美術」の4つの収集方針に基づき作品を収集。現在、約9500点を収蔵
- ・「エコール・ド・パリ」を代表する藤田嗣治氏の作品については、《自画像》、《夢》、《ベルギーの婦人》をはじめ7点所蔵

(2) ランス美術館について

- ・1790年代から作品収集を開始。1860年代以降に主要なコレクションとなる作品を収集ランス市中心にあるサン＝ドニ修道院だった建物を美術館として改築し、1913年に開館
- ・2019年より休館し、大規模な改修工事を行っている。2026年に再開予定
- ・改修後には、藤田嗣治氏のための展示室が新設される予定
- ・美術館改修工事のために、新たに保存センターを建設し、収蔵作品を移動し管理保管

(3) 名古屋市美術館とランス美術館の関わり

時期	事項
平成25年	両館の発展のために「友好提携に関する覚書」を締結
平成28年	「生誕130年記念 藤田嗣治展—東と西を結ぶ絵画—」開催
平成29年	名古屋市とランス市の姉妹友好都市締結 「ランス美術館展」開催
平成30年	名古屋市美術館所蔵のスーティンの《農家の娘》をランス美術館で展示 ランス美術館所蔵の藤田嗣治関連資料の調査の一部を名古屋市美術館学芸員が協力
令和2年	「ランス美術館コレクション 風景画のはじまり コローから印象派へ」展開催
令和7年	藤田嗣治に関する展覧会開催予定
令和9年	名古屋市とランス市の姉妹友好都市締結10周年

ランス美術館保存センターでは、ランス美術館長 (le musée des Beaux-Art) である Georges MAGNIER 氏らより説明を聴取しつつ、現地調査を行った。その概要は、以下のとおりである。

ランス美術館保存センターは、ランス美術館の休館に伴い、美術品が展示されない期間中に安全に保存・保管することを目的として4年前に設立されたものである。

ランス・ボザール美術館やルーブル美術館などの作品が保管されており、その中には日本の美術品も多く含まれている。

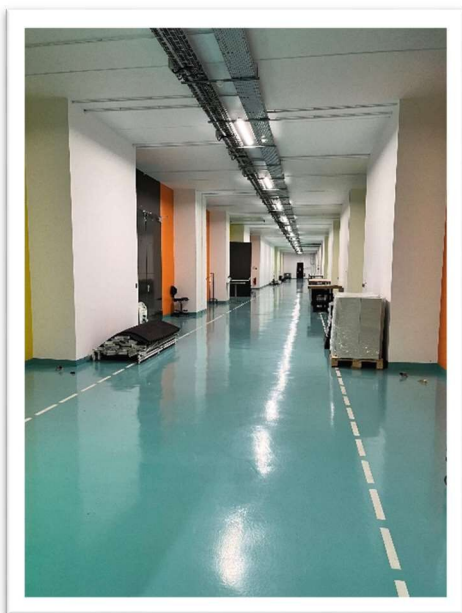
特に19世紀の日本版画や、フジタチャペルのフレスコ画の下絵が保管されており、日仏の文化的な繋がりを感じることができた。

センター内には約60,000点の美術作品が保存され、修復や保管に関する作業が精力的に進められている。



▲ Georges MAGNIER 氏

センターには、写真保存のための専用部屋が1つ、修復作業を行う部屋が2つあり、虫食いや経年劣化に対応する修復作業も実施されている。



保存される美術品は、絵画や彫刻などのジャンルごとに分けて管理されており、15カ所の保存場所が設けられている。

施設自体は5,700平方メートルの敷地にあり、1階建て3,900平方メートルが建物として使用されている。

2018年に着工し、2019年から美術品の保管が開始され、2020年から本格的な運用が始まっている。焼物や彫刻、家具なども保管されている。

「家具」の保管庫には、桜やトンボをモチーフにしたエミール・ガレの作品が保管されており、アールデコやモダニズムの美術品とともに慎重に管理されている。

「彫刻」の保管庫には、ランス・ボザール美術館の全てのコレクションが保管されていた。従来は20点程度だった展示が、新しいランス美術館では300点の彫刻を展示する予定とのことである。

センターには常勤の修復職人はおらず、修復作業は外部の民間アトリエやベルサイユにある修復センターと連携して行われている。特に複雑な修復が必要な場合はベルサイユの修復センターに依頼されており、国内外の専門機関と緊密に協力していることが確認された。ここでは今後4年かけてフランス国内5つの美術館の作品を保存・保管していく予定とのことである。



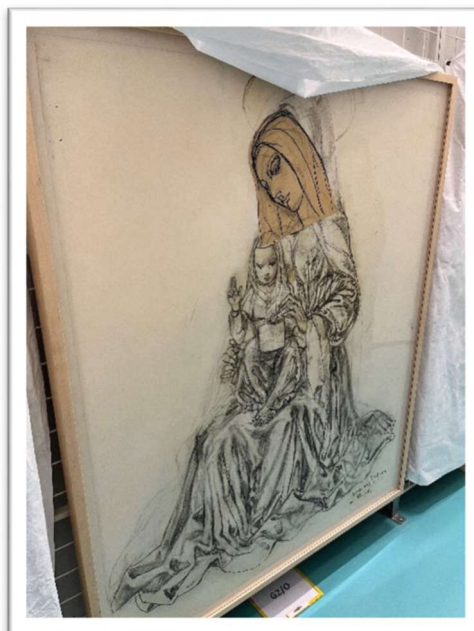
センターでは、各作品に応じた温度と湿度の管理が徹底されていた。例えば、「家具には18度から24度、湿度50%前後」が理想とされ、それぞれの部屋で条件を調整することが可能。火災への対応については、名古屋市博物館に装備される予定の減圧施設はなく、排煙装置のみで消火活動における優先順位を決めているとのことであった。

「絵画」の保管庫には、藤田嗣治氏のデッサンが2,000点以上も保管されており、1950年代の作品「黒髪の少女」を鑑賞した。その他「動物」「肖像画」「キリスト教」をテーマとした作品が中心である。

これらのデッサンは当初紙一枚のものであったが、センターで装丁・修復され、より厚めの紙に貼られることになった。透明な紙に描かれた「猫」の絵も有名な作品である。



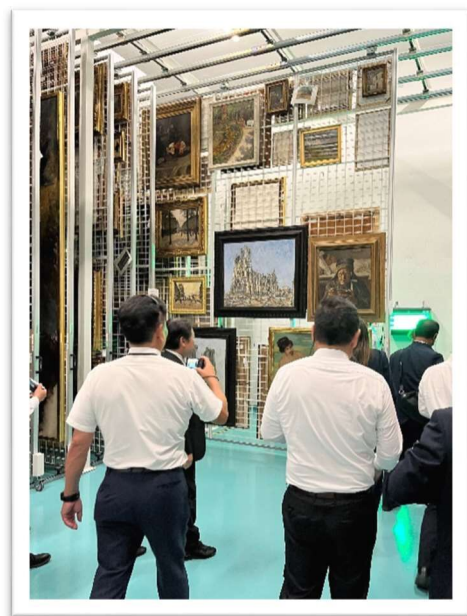
藤田氏の「老人と子供」という貴重な作品も鑑賞。またフジタチャペルのデッサンである「聖母マリアとキリスト(1965.4.19)」は、角度を調整するために顔部分が切られて描かれていることがわかった。現場に合わせて実物大でデッサンしており、ほとんどのデッサンがここに保存されている。また、日本の軽井沢にある安東美術館にも「洗足式」のデッサンがあるとのことである。



これらの作品については展示した後「休ませる」ための慎重な管理が求められ、他の美術館への貸し出しは困難とのことである。ちなみに、ランス・ボザール美術館の所蔵作品のデータはオンラインでも見ることが可能である。

すべての作品にはバーコードが付けられており、保管箱にも番号が記載され、デジタル管理によって正確かつ効率的な保管が行われている。

他の絵画として、パリ歴史博物館の下絵やカルディナル美術館のデッサン（リニューアルオープン時に展示予定）、「落ち葉拾い」で有名なミレーの非常に貴重な作品2点を鑑賞した。



視察の最後に、2026年に新設予定のランス美術館の展示スペースについて説明を受けた。新しい展示スペースは現在の3倍の規模になり、展示される美術品の数も350点から1,300点に増加する見込みである。敷地は拡張せずに地下2階まで展示室を設ける予定である。

藤田嗣治氏の作品が展示される専用展示室が「屋根裏」に計画されており、215平方メートルに約60点を展示予定である。一つひとつをイーゼルで展示し、アトリエのような雰囲気の中で作品が展示される予定である。それは2026年半ばになるとのこと。また壁にはフジタチャペルのデッサンを展示する予定である。常設されるが、1年で休ませる必要があるため入れ替えを行う計画である。



今後、名古屋で「藤田と写真」展を開催予定で、マリアというアメリカ人女優の写真を絵画にしたものなど3作品が貸し出される予定が明らかになった。

これまでにない新たな視点として、家族連れや子どもたちにも理解しやすい展示方法を取り入れる計画が進んでおり、教育的な要素を強化した展示が期待されている。

ランス美術館保存センターでの現地調査を終えた後、ふじた団長から今回の視察の受け入れに関する御礼のあいさつを行い、名古屋市美術館から承った親書をお渡しした。



《所感・考察》

今回の視察を通じて、ランス美術館保存センターが貴重な美術品の保管において重要な役割を果たしていることが確認された。保存技術や修復方法についても高いレベルで運営されており、国内外の機関との連携も強化されている。また、名古屋市との協力関係も今後さらに深化し、特に藤田嗣治氏に関する展示や文化交流が継続的に行われることが大いに期待される。

・ランス美術館保存センターでの調査を終え、この日の調査は終了した。